

# 目 次

はじめに .....	2
<b>I 昭和60年度 管理運営概要</b>	
1. 組 織 .....	3
2. 予 算 .....	4
3. 事業計画 .....	5
<b>II 昭和59年度のあゆみ</b>	
1. あゆみと日誌抄 .....	6
2. 入館状況 .....	9
3. 常設展 刀剣コーナー・ スタディ・コーナー・その他 ...	10
4. 特別展	
(1) 濃飛の戦国武将 .....	12
(2) ふるさとの昆虫 .....	14
(3) 美濃の蘭学 .....	16
5. 資料紹介展	
(1) 刀装具 .....	18
(2) ふるさとの大地をつくる岩石 .....	19
6. 資料調査収集活動	
(1) 人文部門 .....	20
(2) 自然部門 .....	21
7. 教育普及活動 .....	23
8. 図書資料寄贈者芳名一覧 .....	27

## は　じ　め　に

岐阜県博物館は、置県100年を記念し、本県唯一の総合博物館として昭和51年5月に開館以来、本年度で10年目を数え、入館者は間もなく100万人に達する見込みです。

この間、当博物館の事業活動について、県民の皆さんをはじめ関係者各位の御支援・御指導により、県内の自然・人文両分野にわたる資料の収集、調査研究の充実・整備や特別企画展、移動展、各種行事等の教育普及活動を順調に実施してまいることができました。心から感謝申し上げます。

本県は、日本の中央に位置し、東西両文化の交流を背景に、山岳部の飛騨地方と平野部の美濃地方とそれぞれ異なる風土のもとに文化が生まれ、今日の岐阜県を形成してきました。

今年度の春の特別展「濃飛の縄文時代」は、こうした本県文化の特色が、既に遠く縄文時代に芽生えていたことを御理解いただくために、770点余の資料を縄文人の生活展として紹介したものであります。また同展には、特に飛騨高山の二木家に伝わる貴重な石器コレクションも展示することができ、極めて好評裡に閉幕いたしました。関係各位の御協力に対し、心から御礼申し上げます。引き続き、夏には「鉱物の世界」を、秋には「美濃の刀剣」の特別展を企画いたしております。

近年、生涯教育の推進と高齢化社会への対応が今日的課題になっており、社会教育施設としての当博物館の使命もますます高まるものと思われまます。

私ども館員一同、こうした新しい要請に的確に応えるべく、また、来年には開館10周年を迎えるに当たり、当博物館活動のあらゆる面に創意工夫をこらし、常に「やすらぎのなかで楽しく学ぶ」ことができる県民のための博物館を目指して努力したいと願っております。

ここに、昭和59年度における当博物館の事務事業の状況をとりまとめた岐阜県博物館報第8号をお届けします。

御高覧を賜り、今後の当博物館のよりよい運営のための御高見を賜りますれば幸甚に存じます。

昭和60年7月1日

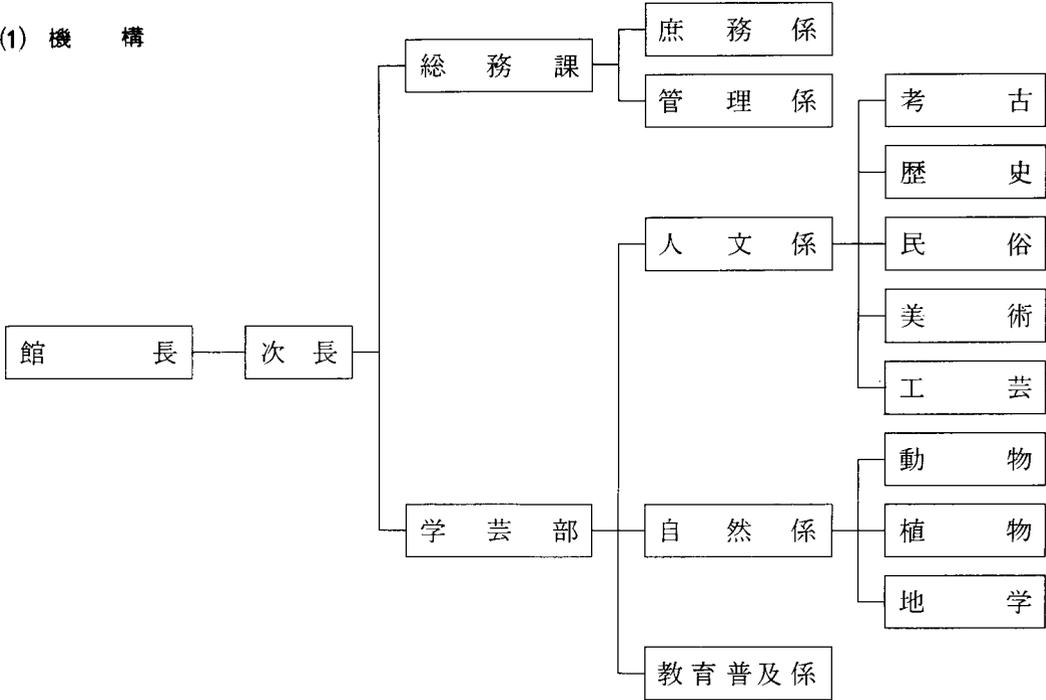
岐阜県博物館長

廣田照夫

# I 昭和60年度 管理運営概要

## 1. 組織

### (1) 機構



### (2) 職員

昭和60年4月1日現在

職名	氏名	職名	氏名
館長	廣田 照夫	○学芸部	
次長	山田 展明	学芸部長	山田 康夫
○総務課		主任学芸主事兼人文係長	大前 匡雅
課長	海老沢 吉郎	学芸主事	片野 田二
主任主査(兼庶務係)	中川 端正	学芸主事(学芸員)	平徳 松英
主任主査	山川 弘子	学芸主事	小川 正和
主任主査	林 作男	主任学芸主事兼自然係長	中野 敬一
管理係	吉原 敏彦	学芸主事(学芸員)	小野 木三
業務嘱	後藤 幸晴	学芸主事	國安 光正
〃	薦木 伸子	学芸嘱託員(学芸員)	安鈴 藤志
〃	各務 章子	教育普及係長	鈴木 木田
〃	成鈴 清智	教育主事(学芸員)	石井 功興
〃	青山 貴佳	学芸嘱託員	中島 雅鉦
〃	古田		

(3) 博物館協議会

当協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応じ、または意見を述べる機関として、岐阜県博物館条例（昭51）第2条の規定に基づいて設置され、委員は次のとおりである。

昭和60年6月1日現在

役職名	氏名	住所	現職
会長	林 金 雄	各務原市那加雲雀町37	大垣女子短期大学教授
副会長	土 屋 齊	大垣市荒尾町1077	大垣共立銀行取締役頭取
委員	小 倉 巖	岐阜市岩井32-25	岐阜県中学校長会長
〃	片 桐 孝	岐阜市五坪町コーポ田神	岐阜県私立中学高等学校協会会長
〃	坂 倉 又 吉	羽島市竹鼻町2733	千代菊取締役社長
〃	鈴 木 勝 忠	岡崎市中岡崎町9-10	岐阜大学教育学部教授
〃	関 谷 好 安	本巣郡穂積町本田1560の1	岐阜県高等学校長協会会長
〃	瀬 口 貞 夫	各務原市尾崎北町1-86	岐阜日日新聞社監査役論説委員長
〃	寺 松 勝	岐阜市華陽町2-2	岐阜県小学校長会長
〃	林 正 一	揖斐郡揖斐川町三輪133	岐阜県公民館連合会長

2. 予 算

当初予算額（単位：千円）

区分	内 訳		昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
	年 度				
歳 入	博物館使用料		11,023	9,140	9,664
	諸 収 入		281	308	319
	合 計		11,304	9,448	9,983
歳 出	博管理 物運 管 館費	運 営 費	26,745	25,026	26,508
		施 設 管 理 費	80,068	86,193	81,761
		博 物 館 協 議 会 費	284	284	284
		計	107,097	111,503	108,553
	博 物 館 事 業 費	常 設 展 示 費	19,729	15,079	23,279
		特 別 展 示 費	6,500	7,000	7,000
		資 料 収 集 管 理 費	1,300	1,300	1,300
		教 育 普 及 活 動 費	2,300	2,300	2,400
		調 査 研 究 費	600	600	600
		計	30,429	26,279	34,579
合 計		137,526	137,782	143,132	

### 3. 事業計画

#### 展示活動

	期間	主な展示内容
常設展		1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと美術工芸を展示。刀剣コーナーは年4回展示替え。
(特別展)濃飛の縄文時代	4/23～6/9	縄文時代の美濃と飛騨の暮らしを土器・石器などの出土品を中心に紹介。
( " ) 鉱物の世界	7/16～9/8	— 未来をひらく鉱物 — をサブテーマとして、鉱物の特徴や社会生活とのかかわりを紹介。
( " ) 美濃の刀剣	10/8～11/24	赤坂鍛冶・関鍛冶の作品を中心に美濃伝の系譜を紹介。
移動展	4/24～5/9	海津町公民館高須分館
	8/8～8/22	岩村町公民館
(資料紹介展)ふるさとの魚	12/15 <sup>61</sup> ～2/11	県内産魚類の漁法と、魚にかかわる方言などを生息場所を中心に紹介。
( " ) 古式鉄砲	61 3/2～4/6	古式鉄砲(火縄銃)の歴史的意義と美術工芸品としての価値を紹介。

#### 教育普及活動

	期日	対象	定員	内容
講演会	5/12	一般	100人	「縄文時代の食生活」 国立民族学博物館助教授・小山修三氏
	8/11	"	"	「石の話 — 鉱物の世界 —」 日本地学研究会館館長・益富寿之助氏
	11/10	"	"	「美濃の刀剣」 日本美術刀剣保存協会常務理事・加島進氏
人文教室	5/26	中学生以上	80人	「アフリカ旧石器時代の文化」 信州大学教授・大参義一氏
	10/27	"	"	「江戸時代の農業」 郷土史研究者・丸山幸太郎氏
自然教室	6/23	"	"	「濃尾平野のおいたちをさぐる」 名城大学教授・桑原徹氏
	10/13	"	"	「サルのかた道」 京都大学教授・岩本光雄氏
	11/17	"	"	「花の話」 岐阜大学助教授・高橋弘氏
歴史教室 (岐阜県の人物)	6/9	"	30人	「永田佐吉(慈善家・仏佐吉)」
	9/29	"	"	「浅見与一(右衛門(電気事業))」
	12/8	"	"	「西脇秀挺(種痘普及)」
親子考古教室	6/2	親と子	40人	「縄文時代のまつり」
	8/18	"	50人	「火おこし器をつくらう」
自然観察教室	5/19、9/22	"	30人	「百年公園の昆虫しらべ」
	4/28、11/24	"	"	「百年公園の植物しらべ」
	7/14	"	"	「植物画を楽しもう」
親子手づくり教室	7/7	"	40人	「切り絵」
	8/25	"	"	「竹細工」
	12/1	"	"	「版画あそび」
	12/15	"	"	「しめなわづくり」
自然移動教室	10/6	一般	23人	「長良川沿いの自然を訪ねて — 地質めぐり —」
人文	11/3	"	"	「刀匠・研師を訪ねて — 中田兼秀氏・伊佐地勉可氏 —」
自然観察会	7/27・28	親と子	50人	「根尾村の自然観察(昆虫と植物)」
自然サンデー教室	毎月1回、日曜日		入館者	自然展示室1、2の資料について、当館学芸員が解説
自然スタディ コーナー	2ヶ月ごとに展示替え		入館者	ふるさとの第三紀(3月・4月)ニホンカモシカ(5月・6月)ブナ林の世界(7月・8月)海でできた石(9月・10月)ほ乳動物の体のつくり(11月・12月)照葉樹林の世界(1月・2月)白亜紀の化石(3月・4月)
夏休み研究相談室	7/10～7/25 8/25～8/30	小・中学生	—	夏休みの研究や、その整理のしかたについて学芸員が相談に応じる
民俗芸能実演	5/5・10/20 3/9	一般	—	関孫六太鼓・わらべ歌と民謡 古式鉄砲(火縄銃)
日曜映画会	10/8～11/24	"	入館者	「関の日本刀」VTR

## II 昭和59年度のあゆみ

### 1. あゆみと日誌抄

当博物館は、昭和51年5月に開館以来8年を経過し、昭和59年8月までに90万人の入館者を迎えた。

本年度の入館者数は、79,556人（小中高大生が56%、団体は40%強を占める。）前年度より増加した。

当館は、県民に親しまれ、愛される県内唯一の総合博物館としての機能と、特徴、必要性を遺憾無く発揮することが大きな課題であり、その目的にむかって次の基本方針に沿い、努力を重ねてきたところである。徐々にではあるが所期の目的を達成しつつあると自負している。

1. 資料の充実整備
2. 展示構成の充実
3. 特別展の質的向上
4. 調査研究の推進
5. 教育普及活動の拡充

県内では、各地方公共団体、或は個人、法人による社会教育施設の開設充実が進んでいる。59年の春には、羽島市歴史民俗資料館、夏には、藤橋村歴史民俗資料館がそれぞれ開館、またこのほかにも施設の整備等が行われ、県下の教育文化の増進醸成に努めている。

収蔵資料は、昭和59年度末現在41,877点である。自然系の資料は、30,864点うち動植物等の実物資料25,348点（館蔵）、人文系の資料は、11,013点うち考古、歴史、民俗等の実物資料3,453点（館蔵）になっている。本年度は、麦摺器等2,025点（自然系1,651点、人文系374点）を収集し資料の充実に努めるとともに、こうした貴重な資料を良好に保存するため、全館のガス燻蒸消毒を実施した。

特別展は、美濃の戦国時代を幕開けした斉藤妙椿と近世への道を開いた織田信長を中心に紹介した「濃飛の戦国武将」を春に、県内の昆虫の生態やその分布状態を紹介した「ふるさとの昆虫」を夏に、美濃出身の蘭学者の遺品を展示紹介し近代科学の発展をたどる「美濃の蘭学」

を秋に開催した。いずれの特別展とも好評をほしくし総入館者の67%を越える5万4千人の人々が熱心に観覧した。この期間中には、著名な講師による講演会を開催し多くの人々が聴講した。当館の啓蒙とイメージアップにつながる重要な事業である。

そのほかの展示では、資料紹介展として鐺、目貫、小柄等の「刀装具」展と県内の代表的な岩石を紹介した「ふるさとの大地をつくる岩石」展を開催した。

調査研究事業は、前年度に引き続き「飛騨川上流地域の自然調査」を行い、大野郡久々野町と益田郡小坂町一帯における動植物相及びその生態と分布、また地質構造と地史の調査、並びに資料収集に成果をあげた。なお人文系の事業は、「伝統芸能の類型別分類調査」を実施した。

県内各地に伝わる伝統芸能にかかわる文化を整理分類することにより、伝統芸能相互の類似、相違点をあきらかにして地域文化の類型的な位置づけをするものである。これらの調査研究については、研究報告書に発表、また収集資料は整理保存する。なお、60年3月には、こうした事業に伴うものや、学芸主事の研究結果をまとめた「岐阜県博物館調査研究報告」第6号を発行した。

教育普及では、「ふるさとの植物とは乳動物」の移動展を恵那文化センター、及び揖斐川町中央公民館において開催した。地方における博物館活動の意義は大きく期待されるものがあつた。

学芸主事による自然観察会、移動教室、親子手づくり教室、また自然・人文の博物館教室等の催しものは、いずれも参加者の関心を集め、親と子がお互いに助けあい楽しく学ぶ情景は頬笑ましく、親子のふれあいの場として社会教育の一端を担うことができた。

郷土学習室には、自然や歴史を6つのジャンル別にグループで勉強できる「ビデオ・スタディコーナー」を新設した。

一層内容の充実と整備を図る所存である。

日誌抄

4・1 人事異動

転出 館長	吉本 幹彦
主任学芸主事兼人文係長	国本日出登
学芸主事	平井 昭彦
〃	早野 博之
主事	服部 千章
転入 館長	関谷美智男
次長	山田 展明
人文係長	増田 義明
学芸主事	平田 公二
教育主事	今井 雅巳
主任	川端 正
新任 学芸嘱託員	鈴木 功

4・1 「博物館だより」第23号発行

- 11 大蔵省理財局地方資金課課長補佐一行来館
- 12 東京国立博物館庶務室長来館
- 22 自然観察教室「百年公園の植物しらべ」
- 25 鹿児島県民局長来館
- 30 民俗芸能実演会「関孫六太鼓」
- 5・6 岐阜県の歴史教室「宝暦治水」
- 11 神戸市立王子動物園副園長来館
- 13 人文移動教室「戦国武将ゆかりの寺をたずねて」



- 14 全館害虫駆除消毒
- 18 岐阜県博物館協会総会
- 20 講演会「美濃の戦国大名」  
岐阜県博物館協会セミナー
- 27 自然観察教室「百年公園の昆虫しらべ」
- 30 四館連絡会議

6・3 人文教室「濃飛の戦国時代」

6・3 中国杭州市友好訪日団一行来館（鍾杭州市長ほか4名）



- 10 岐阜県博物館友の会中濃地質めぐり
- 17 親子手づくり教室「おめんづくり」
- 21 岐阜県博物館協議会
- 24 自然教室「はげしい火山活動」
- 25 岐阜県博物館協会セミナー  
全館ガス燻蒸消毒（7月2日まで）
- 7・1 「博物館だより」第24号発行  
「岐阜県博物館報」第7号発行
- 7 ブラジル青年一行来館（岐阜市招待）
- 11 岐阜大学外国人留学生一行来館
- 12 仙台市博物館職員来館
- 15 岐阜県の歴史教室「木曾三川分流」
- 22 親子考古教室「縄文時代のすまい」
- 28・29 自然観察会「板取の昆虫と植物」
- 8・1 加賀市社会教育課職員来館
- 3 移動展「ふるさとと植物とほ乳動物」  
（恵那文化センター 8/15まで）

ふるさとと植物とほ乳動物

岐阜県博物館恵那移動展

恵那文化センター

8月3日～8月15日  
午前9時～午後5時  
（日曜日休館）

※9月、特に美濃地方の動物植物を  
対象とした展示を行います



開館時間  
◎岐阜県の自然観察 8/8日午後1時30分  
◎岐阜県の自然動物観察 8/10日  
「自由に参加して下さい。」

岐阜県博物館  
恵那市教育委員会

- 8・4 東京学芸大学木村、筑波大学猪俣両教授来館
- 5 講演会「ふるさとの昆虫」  
日本美術刀剣保存協会刀剣博物館主任学芸員来館
- 12 親子考古教室「火おこし器をつくろう」
- 18 移動展「ふるさとの植物とは乳動物」  
(揖斐川町中央公民館 8/31まで)
- 22 沼津市教育委員会一行来館
- 23 相模原市教育委員会一行来館
- 26 親子手づくり教室「竹細工」
- 30 入館者90万人目 記念品贈呈



- 9・7 京都大学江原教授来館
- 8 中国一時帰国者一行来館
- 16 自然教室「中国や日本の薬用植物」
- 17 全館害虫駆除消毒
- 30 自然観察教室「百年公園の昆虫しらべ」
- 10・1 「博物館だより」第25号発行
- 2 川口市教育長一行来館
- 6 大津市教育委員一行来館
- 7 岐阜県博物館友の会歴史探訪寺めぐり
- 11 岐阜県博物館協会セミナー
- 14 講演会「美濃の蘭学」
- 19 ブラジル在住岐阜県人一行来館
- 21 岐阜県の歴史教室「輪中のくらし」
- 24 岐阜県社会教育委員一行来館
- 28 自然移動教室「岐阜・根尾地域の自然をたずねて」
- 11・4 民俗芸能実演「関孫六太鼓」
- 5 全館害虫駆除消毒
- 9 岐阜検察庁検事正来館
- 11 自然観察教室「百年公園の植物しらべ」

- 16 岐阜高校交換留学生家族一行来館
- 18 人文教室「壬申の乱と岐阜県」
- 29 岡崎市教育委員会一行来館
- 12・2 親子手づくり教室「版画あそび」
- 12 岐阜県博物館協会セミナー  
徳島県教育委員会一行来館
- 13 文化庁記念物課調査官来館
- 16 資料紹介展「刀装具」(2/3まで)  
親子手づくり教室「しめなわづくり」  
業務嘱託員長谷川恵子退職

60年

- 1・1 業務嘱託員青山貴子新任
- 24 消防訓練実施
- 30 総理府統計局今井課長来館
- 2・10 資料紹介展「ふるさとの大地をつくる岩石」(4/7まで)
- 19 埼玉県立自然中央博物館長一行来館
- 20 岐阜県博物館協議会
- 21 三重県河芸町文化財収集委員一行来館  
中国一時帰国者一行来館
- 3・15 岐阜県博物館協会常任理事会
- 16 業務嘱託員酒井真由美退職
- 22 全館害虫駆除消毒
- 31 「岐阜県博物館調査研究報告」第6号発行



退職 参事兼次長 夏目 文夫  
学芸嘱託員 宮野 伸也

## 2. 入館状況

今年度は、入館者総数79,556人、前年度に比較して5%増であった。

また、開館日数297日であり、1日平均の入館者は268人であった。

月別の入館状況は下表のとおりであり、春期の4月と5月、秋期の10月と11月の4カ月で全体の約60%を占めている。

また、1日の入館者が最も多い日は5月の連休中であり、5月5日には1,868人を数えた。

なお、8月30日には開館以来90万人を突破している。

団体入館者をみると、369団体32,250

人で年間総数の約41%にのぼり月別では10月が最も多く団体入館者総数の約35%を占めている。

更にこれを県内、県外別にみると県内が265団体22,124人で全体の約69%を占め、県外では愛知県が圧倒的に多く約30%を占めた。

特別展の入館状況については、通算開催日数は120日で53,768人であり、1日平均448人であった。これを総入館者からみると約68%にのぼり、特別展への関心の高さがうかがえる。

### (1) 博物館入館者数

月別	小中生	高大生	一般	計	開館日数	1日平均
4月	3,486人	749人	4,143人	8,378人	26日	322人
5月	6,429	2,619	6,116	15,164	27	562
6月	1,498	700	2,379	4,577	21	218
7月	1,512	199	2,211	3,922	25	157
8月	2,686	265	4,077	7,028	27	260
9月	2,982	432	3,968	7,382	26	284
10月	10,232	1,904	3,721	15,857	25	634
11月	5,173	115	3,235	8,523	26	328
12月	298	124	960	1,382	22	63
1月	467	53	1,149	1,669	22	76
2月	705	55	1,260	2,020	24	84
3月	1,328	118	2,208	3,654	26	141
合計	36,796	7,333	35,427	79,556	297	268

### (2) 特別展期間中の入館者数

特別展名	期間	小中生	高大生	一般	計
濃飛の戦国武将	59. 4.24～59. 6. 3	9,054人	3,160人	8,689人	20,903人
ふるさとの昆虫	59. 7.17～59. 9. 2	4,257	445	6,117	10,819
美濃の蘭学	59.10. 9～59.11.25	14,154	1,702	6,190	22,046
合計		27,465	5,307	20,996	53,768

### 3. 常設展

#### (1) 刀剣コーナー

当館では、人文展示室Ⅱに刀剣コーナーを設け、美濃の刀剣を中心に展示している。ご来館いただく皆様により多くの作品をみていただけるよう年4回の展示替えを行っている。昭和59年度の年間展示資料は下表の通りである。

第一期	第二期	第三期	第四期
4月24日～7月23日	7月24日～10月21日	10月22日～1月20日	1月21日～4月21日
刀無銘 志津 刀無銘 直江志津 刀 銘 濃州赤坂住兼元 脇指銘 兼定 短刀銘 兼房 槍 銘 相模守藤原政常 太刀銘 長谷部国信 刀 銘 波平行安	刀無銘 志津 刀 銘 兼元 槍 銘 志津三郎兼氏 短刀銘 加州藤原信友 槍 銘 定廣 槍 銘 河内守国助 刀 銘 備前国住長船彦兵衛尉祐定 刀 金象嵌銘 国信 槍 銘 国重	刀無銘 直江志津 刀 銘 兼元 刀 銘 兼吉 短刀銘 兼道 短刀銘 濃州御勝山禁藤原永貞、依伊藤氏好於武州江戸鍛之 太刀 無銘 為継 鍔通銘 備前長船祐定 永正二年八月日 脇指 無銘 津田越前守助広	刀無銘 伝 金重 刀 銘 濃州赤坂住兼元 刀 銘 国次 短刀銘 兼房 脇指銘 信濃守藤原大道 短刀銘 濃州御勝山麓藤原永貞、於伊勢田丸作之萬延元年八月吉日 脇指銘 近江守藤原継広 槍 銘 会津下坂 大身槍銘 同田貫信賀作

#### (2) スタディ・コーナー

資料収集・調査研究の成果を活用し、学芸活動のささやかな発表の場と考え、動・植・地学分野が輪番で担当している。

- 3～4月 ふるさとの火山岩…県下の大地を構成する岩石のうち、新・旧の時代の火山岩の特徴を紹介。
- 5～6月 長良川のさかな…長良川流域に生息する魚類の分布を液浸標本で紹介。
- 7～8月 高山植物…ツンドラ地帯の植物と北アルプスの高山植物の共通性を、標本・写真・レプリカ等で紹介。

- 9～10月 石灰岩とかこう岩…両者が接触したところのできるいろいろな鉱物を紹介。
- 11～12月 ネズミのなかまたち…県内に生息する代表的なネズミの分析・生態の紹介。
- 1～2月 岐阜県のシダ…暖地性・寒地性のシダ植物の分布事例を示し、シダ植物の分布地理を紹介。
- 3～4月 ふるさとの第3紀…現在のは乳動物の祖先が活動した時代について、郷土産の各種化石によりその特徴を紹介。

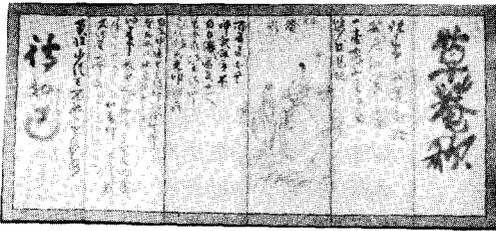


(3) その他の展示替え (人文II)

○<sup>えんじ</sup>圓慈 (1721~1792) 書

<sup>そうあんか</sup>草庵歌 <sup>のちのそうあんか</sup>後草庵歌 (六曲一双屏風)

圓慈は臨濟宗の僧で、近江国(滋賀県)に生まれ、号を東嶺<sup>とうれい</sup>といった。9才で出家し、その後、駿河国(静岡県)の白隠禪師に学び、40才で伊豆(静岡県)に竜沢寺を開いた。この頃から、師白隠にかわって臨濟の奥義を講じて全国を回った。圓慈は72才で亡くなるまで61年間法界にあり、数多くの仏教書を残した。この草庵歌、後草庵歌は、相い次いで両親を亡くし、自身も重い病いに苦しむ中で自分の歩んできた道が、一体何であったか、つきとめようとしたもので、圓慈独特の大胆な筆法であらわされている。



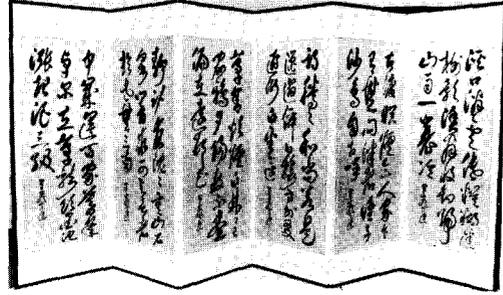
○<sup>やなわせいがん</sup>梁川星巖 (1789~1858) 書

玉宇無織翳五絶他 溪口滄雲低五絶他  
(六曲一双屏風)

梁川星巖は、安八郡曾根村(現大垣市曾根町)に生まれ、幕末期に漢詩人として、また尊王論者として活躍した。

江戸に出て古賀精里・山本北山らに学び、太

田錦城らと交わり、もっぱら詩作を行い、1832(天保3)年に「玉池吟社」をつくり名声が上がった。のち京都に移り、梅田雲浜・横井小楠らと交わり国事に奔走した。星巖の詩は幕末に尊攘派の志士に愛好された。



○<sup>おおはし せいせき</sup>大橋翠石 (1865~1945) 画

猛虎之図(額装)

翠石は、大垣市出身の虎絵を得意とした画家である。明治33年には、パリ万国博覧会で優勝金牌を受賞している。

翠石の虎絵の画法は、濃淡のにじむような縞模様を何本を書き、その流れの方向によって自然に姿勢・体形を表わしており、尾の先に致るまで、この縞々の配列だけで形を作り、輪郭線を書かない。また、巧みな「毛書き」によって、いっそう虎の風格を表わす工夫がなされている。



## 4. 特別展

### (1) 濃飛の戦国武将

4月24日(火)～6月3日(日)

応仁の乱は、幕府と守護大名の支配力を後退させた。多くは、その被官が競い合って浮上しようとする下剋上の風潮を生み出した。彼等は自己の力を唯一の頼みとし、新しい力関係による封建支配の樹立をめざした。

応仁の乱以降、本県において新しい時代を築く下地をつくり上げたのは、<sup>さいとうみょうちん</sup>齋藤妙椿(守護代)と織田信長である。齋藤妙椿は、禅宗寺院と結びながら地方分権支配をめざした。一方、織田信長は、仏教勢力を排除しつつ、やがて全国制覇へと進むのである。前後、2つの大きなうねりは、中小の渦を呑み込みながら確実に近世へ押し寄せていった。

本特別展では、この動きを軸に、懸命に生き抜いていった武将たちの姿を残された文化遺産を通して紹介し、近世の礎となった武将たちの生きざまに触れ、郷土愛をより深めていただくことを願った。

#### 展示内容

##### I、応仁の乱後の美濃と飛騨

守護代齋藤妙椿が、応仁の乱以降、着々と美濃支配を固めてきた動きと、周辺の有力戦国大名のけん制をうけながら、次第にまとまってくる飛騨の情勢を紹介する。

ア、守護代齋藤妙椿の台頭(齋藤妙椿、土岐成瀬<sup>とうぎなるよ</sup>、東常縁)

イ、三木自綱<sup>みつきよりつな</sup>の飛騨平定(姉小路基綱<sup>あねみちのり</sup>、江馬輝盛、三木自綱)

##### II、近世への道

美濃に出て、わずか20数年で政権を握り、近世の扉をたたいた齋藤道三父子と、その革新的な姿勢で美濃の中小武将を配下にし、全国統一の足場を固めていった織田信長の歩みを紹介する。

ア、戦国の梟雄齋藤道三(齋藤道三、齋藤義龍)

イ、近世の掛け橋となった織田信長(織田信長)

ウ、信長麾下<sup>きしか</sup>の部将たち(稻葉一鉄、竹中半兵衛、豊臣秀吉、遠山友政、堀秀政、池田信輝、金森長近)

##### III、武将のくらし

戦国の世に生きる武将たちの生活は、厳しさと質素の中にも、人間性ゆたかな面もあったことを紹介する。

ア、くらしを守った館と武器(武将の館、武器)

イ、食生活のようすとその用具(食事と調理のようす、食器、調理具、容器)

ウ、明りと暖(照明具と暖房具)

エ、くらしをゆたかにしたもの(茶花用具、薬用品、化粧用具、遊具、書具等)

#### 関連事業

##### I、講演会 5月20日

演題 「美濃の戦国武将」

講師 東京大学助教授 勝俣鎮夫氏

勝俣先生は、「戦国の世は、日本の村(自治)と家(家族)制度を創造した時代であり、それが現代破壊されつつある。まさに現代は第2の戦国時代である。』と論ぜられた。特別展を通して、現代社会を正しくとらえる視点を与えていただい、大変意義深いものであった。

##### II、人文教室 6月3日

演題 「濃飛の戦国時代」

講師 岐阜市文化財審議委員 吉岡勲氏

##### III、人文移動教室 5月13日

「戦国武将ゆかりの寺を訪ねて」

岐阜市(瑞龍寺、円徳寺、常在寺、崇福寺)

## 展 示 品 目 録

No.	資 料 名	No.	資 料 名	No.	資 料 名	No.	資 料 名
1	斎藤妙椿書状	47	膳 椀	93	黒漆布袋鞍	139	十 能
2	小島のすさみ(写本)(県指定)	48	軍 旗	94	蝶 紋 轡	140	葉 茶 壺
3	斎藤妙椿肖像画	49	長篠合戦図屏風	95	鉄錆地桜象嵌両笑鏡	141	茶、入
4	斎藤妙椿和歌	50	鉄 砲	96	金森長近肖像画	142	天目茶碗
5	土岐成頼肖像画	51	禁制制札(県指定)	97	太刀銘源盛繩	143	蕎麦茶碗
6	龍紋様壺	52	楽市楽座制札(県指定)	98	紫糸素懸威二枚胴具足	144	花 生(青磁)
7	新 羅 壺	53	百姓掃住制札(県指定)	99	膳 椀	145	花 生(一輪ざし)
8	仏 塔 象	54	稲葉山城跡之図	100	石 臼	146	遠志 <small>おんじ</small> <small>イトヒメバギ</small> (薬草)
9	土岐の鷹	55	織田信長書状(県指定)	101	高山城下絵図	147	渡羊 <small>いんようかく</small> <small>イカリソウ</small> (薬草)
10	東常緑肖像画	56	織田信長安堵朱印状	102	鉄砲弾地金	148	竹節人 <small>ちくせつにんじん</small> <small>トキバユレジン</small> (薬草)
11	遠藤家系譜	57	織田信長朱印状	103	火 繩 挾	149	龍騰 <small>りょうだん</small> <small>リンドウ</small> (薬草)
12	東常緑和歌	58	櫓 時 計	104	鉛 弾	150	蒼求 <small>そうじゆつ</small> <small>オケケラ</small> (薬草)
13	東家十三代和歌(写)	59	胴 服(麻)	105	刀 子	151	薬 研
14	篠 脇 城(模型)	60	安土古城之図	106	鏝	152	薬 箱
15	飛騨八勝画(写)	61	安土城天守閣棟瓦	107	鉄 鏝	153	和 鏡
16	飛州志附録図誌	62	安 土 城	108	武将の館跡(写真)	154	交趾紅血
17	姉小路基綱肖像画(複製)	63	茶糸威最上胴丸(県指定)	109	鬼 板	155	お齒黒壺
18	江馬輝盛肖像画(写真)	64	稲葉一鉄肖像画	110	釘 隠	156	油 壺
19	江馬輝盛奇進鐙口	65	曾根古城跡絵図	111	引 手	157	毛 拔
20	太刀無銘黒漆拵付(複製)	66	稲葉一鉄良通判物	112	鉄 釘	158	青磁香炉
21	三木自綱肖像画(県指定)	67	能 面	113	鍵	159	聞 香 札
22	三木自綱書状(写)	68	竹中半兵衛肖像画	114	錠	160	瓦質香炉
23	三木直頼奇進梵鐘(県指定)	69	竹中半兵衛肖像画	115	漆 皿	161	人 形
24	紅糸中白威胴丸(写真)	70	一之谷兜	116	白磁皿	162	駒 石
25	斎藤山城守之印	71	竹中半兵衛所用甲冑	117	青磁碗	163	土 鈴
26	斎藤道三禁制(写)	72	旗本竹中氏屋敷絵図	118	灰 釉 碗	164	将棋の駒
27	斎藤道三の懐中本尊	73	竹中重虎(重治)禁制書状	119	染 付 杯	165	笹 塔 婆
28	斎藤道三安堵書状	74	豊臣秀吉肖像画(写)	120	染 付 小 皿	166	硯
29	六角承禎(義賢)条書	75	太刀銘貞綱(県指定)	121	土師質盤皿	167	墨
30	濃州厚見郡岐阜古城之図	76	羽柴秀吉知行充行状(県指定)	122	土師質盤耳皿(はしおき)	168	水 滴
31	斎藤道三書状	77	色々威二枚胴具足	123	武士の食事(酒飯論より)写真	169	銅 錢(北宋)
32	斎藤道三(利政)遺言状	78	孔雀羽根模様陣羽織	124	魚鳥の料理(酒飯論より)写真	170	棹秤の権
33	斎藤道三肖像画(写)	79	桐紋方形四足食膳	125	捏 鉢	171	付 札(複製)
34	斎藤義龍肖像画(写)	80	螺鈿蒔絵鞍	126	搦 鉢	172	木 札(複製)
35	斎藤義龍井水掬書	81	築城当時の墨俣城(模型)	127	平 鉢	173	下 駄
36	斎藤道三折紙(井水沙汰書)	82	遠山友政肖像画	128	土師質土釜	174	鎌
37	稲葉山城主三代	83	遠山友政代官勤方定書(写)	129	曲 物	175	砥 石
38	南蛮様鉄冑	84	苗木城絵図	130	小 壺	176	米 櫃
39	織田信長肖像画(写)	85	紺糸威横刎五枚胴具足	131	火 桶	177	斎藤義龍奇進状(写)
40	信長佩刀鐙	86	堀秀政肖像画	132	徳 利	178	光琳蒔絵火桶
41	織田信長肖像画(写)	87	堀氏系譜	133	灯心押え	179	稲葉一鉄書状
42	紺糸威胴丸具足(写真)	88	堀秀政書状	134	灯 明 皿	180	羽柴秀吉知行方目録(県指定)
43	軍 配	89	堀七左衛門尉書状	135	火 桶	181	軍法極秘傳書
44	足 半	90	金小札 <small>きんせう</small> 糸総毛引威胴丸	136	ばんどこ(こたつ)	182	能面縁記
45	囊	91	池田信輝肖像画	137	五 徳		
46	刀銘義元左文字(写真)	92	大身槍銘正吉	138	火 箸		

## (2) ふるさとの昆虫

7月17日(火)～9月2日(日)

ふるさと岐阜県は、日本列島の中央部に位置し、豊かな自然にはぐくまれている。植物地理的・動物地理的に、北方系と南方系要素が交錯し、動植物の豊庫でもある。

しかし、昆虫の研究においては、岐阜県が学術的価値のある地域にもかかわらず、一部マニア的研究を除いて、ほとんど進展していないのが現状である。

この特別展は、岐阜県昆虫分布研究会が中心となって調査した最新の情報を、会員の協力を得て実施したものである。最近になって調査が進み、今まで岐阜県で記録のなかった種や、新しい分布・生態がわかりかけてきた。単なる見せる展示から、昆虫の多様性に注目し、小さなアリから水生昆虫、洞穴昆虫、ノミ、シラミなど家庭での害虫まで広く取りあげ、実物資料で見ていただくようにした。

この特別展を通して大きなねらいは、

### 1) 見学者に対して

○岐阜県に産する昆虫の多様性及びその生態や分布を理解し、身近な昆虫への興味・関心を高める。

### 2) 岐阜県昆虫分布研究会を中心とした協力者に対して

○成果発表の場となるよう、多くの会員の参加を得、今後の昆虫研究の足場とする。

この特別展は、単に博物館の特別展でなく、会員が、それぞれ各部門を受け持ち、資料を提供し、作りあげたものである。



▲ 開幕式

## 展示構成の概要

展示内容は、大きく二つに区分できる。

### ◎ ふるさとに生息する昆虫 — 系統展示 —

- ふるさとの昆虫研究史  
飯沼慾齋 — 本草図譜第九巻 虫部・介部  
名和 靖 — 蜻採集のギフチョウなど
- チョウのなかま  
クロミドリシジミを含め、岐阜県産チョウ全種
- ガのなかま                      • 甲虫のなかま
- トンボのなかま                • バッタのなかま
- ハチ・アリのなかま          • 水生昆虫
- 洞穴昆虫                        • 害虫

### ◎ 生息場所への案内 — 課題展示 —

- 昆虫と植物
  - 場所による生息昆虫のちがい  
森林・高原・人里など
  - カンアオイとギフチョウ
  - チョウの食草・食樹
  - マツノマダラカミキリのひみつ
  - 生きるための工夫
  - 自然を守る — ホタル —
- 昆虫飼育展示
  - カブトムシ・クワガタムシ・アリ・ヤゴ・ゲンゴロウ・ホタル
- ジオラマ生態展示
  - コナラ、クリなど落葉広葉樹林、池、川のジオラマに昆虫を配置

## 展示資料の概要数

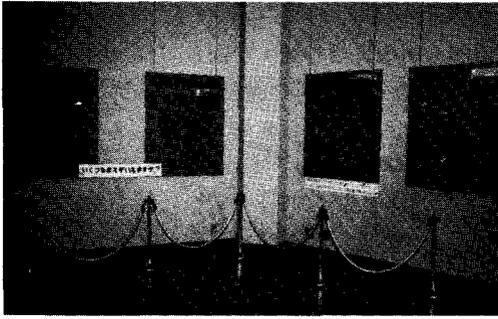
昆虫標本箱 約90 (ドイツ箱)

○昆虫標本数 …………… 約3,000点

○パネル・写真 …………… 約60点



▲ 飯沼慾齋により収録されていたギフチョウ



▲ 生息場所の変化による昆虫のちがいがい

- 植物標本 約100点
- 飼育展示・ジオラマ展示昆虫 約300点

関連教育普及事業

- ・ポケット図鑑として使用できる解説書

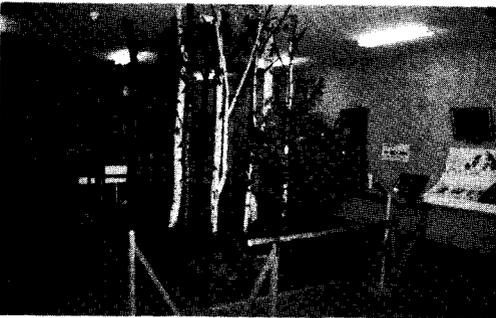
特別展の内容説明をはぶき、岐阜県の昆虫情報や、生息する代表昆虫を、図表、カラー写真で紹介、A5判、16ページ（カラー8ページ）12,000部を来館者に無料配布。

- ・講演及び観覧会

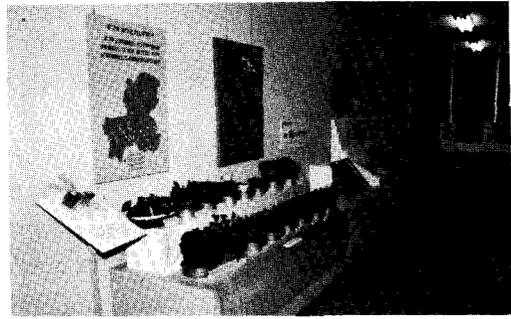
期間中の8月5日に名古屋女子大学佐藤正孝教授の「ふるさとの昆虫」と題する講演会が開催された。また、7月28日(土)～7月29日(日)には、板取村杉島を会場に自然観覧会を行った。親子の参加で植物・昆虫の野外観覧が中心であった。板取川の谷で水生昆虫を観察したり、夜間のライト・トラップに集まる蛾を見たりした。特に、セミの生息数が多く、夜間採集でも見る事ができた。

- ・日曜映写会

展示内容をより理解していただくために、クラスライド「ふるさとの甲虫」「ふるさとのチョウ」（各20コマ）を自作し、日曜日定期



▲ ジオラマ展示風景



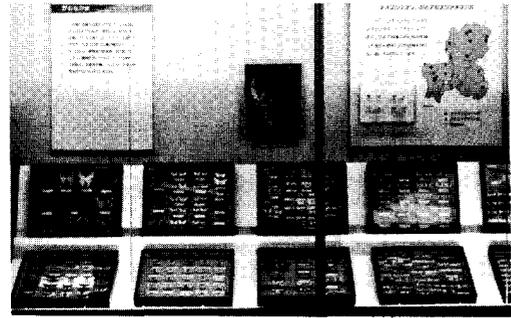
▲ カンアオイの分布とギフチョウ

的に上映したり、希望に応じて団体見学者に上映を行った。

特別展の取りくみの中から

今回の特別展は、岐阜県昆虫分布研究会（代表、武田享）の協力で成立した。研究会としても活動をはじめて日が浅く、準備を進めていく中で、新事実が見つかる。同時に、岐阜県の昆虫相の調査が遅れている実態も明らかになってきた。研究者も多く、調査されていると思われるチョウも、収集行為が中心で、学術的研究は遅れている。バッタ（直翅目）は、種類数、分布すら明らかにされていないことがわかってきた。今まで、採集データが公開される場もなかったし、昆虫類の標本は私蔵化され、研究者の目に触れにくかった。個人の情報を集積すれば、今以上にすばらしい研究が成立するはずである。私蔵している標本が、本当に死蔵してしまわないよう、博物館等の公共研究機関が、その機能を持つべきだと痛感した。

学芸員だけの力でなく、博物館を支える人と共に、より多くの資料を収集し、定期的に一般公開していかなければと考える。



▲ 展示標本（ガのなかま）

### (3) 美濃の蘭学

10月9日(火)～11月25日(日)

現代は科学の時代であるといわれている。日本における近代科学の曙は、江戸時代に発展した蘭学であるといえる。蘭学は、オランダ語によって西洋の学術・文化を研究した学問であり、自然科学にはじまり、後には人文・社会科学にいたるまで広がっていった。蘭学が本格的に発展する契機となったのは、前野良沢・杉田玄白などによる「解体新書」の完成からである。

美濃地方においては、前野良沢に学んだ江馬蘭齋をはじめ、小森玄良・坪井信道・飯沼慾斎・宇田川榕庵たちが、西洋医学・植物学・化学などの発展に大きく貢献した。また幕末には、大垣の江馬塾出身者や華岡青洲の門人などの在村医が、治療活動を活発に行った。特に各地の蘭方医の努力によって実施された種痘は、庶民生活の向上に大きな役割を果たした。

今回の特別展では、美濃地方にかかわる蘭学者たちの著書・遺品などを中心にして、蘭学の発展・普及の足跡を紹介し、鎖国下で並々ならぬ苦勞をして、近代科学の基礎をつくった人々の努力の跡に触れ、郷土を見つめ、現代の科学を理解する契機になることを意図した。

展示は、第1「蘭学の発展」・第2「蘭学者たち」・第3「庶民生活への普及」の3つのコーナーに分け、美濃地方における蘭学の発展・普及を、総合的に把握できるようにした。

「蘭学の発展」のコーナーでは、漢方医学の



開幕式

「内景之図」と「解体新書」とを比較し、蘭学の正確さを示し、さらに、「重訂解体新書」・「蘭学階梯」・「訳鍵」などにより、蘭学の発展を紹介した。

「蘭学者たち」のコーナーでは、「医学」と「植物学・化学など」に分けて、美濃の蘭学の特徴を紹介した。展示品としては、江馬蘭齋（美濃蘭学の祖であり、西洋医学を発展させた）・小森玄良（京都で活躍し、蘭方医として初めて宮中で診療した）・坪井信道（江戸の三大蘭方医家の一人といわれ、日本最初の本格的診断学書を著した）・飯沼慾斎（蘭方医であり、「草木図説」を著し植物学を発展させた）・宇田川榕庵（蘭方医であり、植物学の発展に貢献し、さらに「舎密開宗」を著し日本の近代化学の祖といわれた）などの、蘭学に関する遺品や、江馬塾（京都・大坂よりも早く開かれ、藩からは、なんらの援助もなく、90年に及ぶ長い期間存続



展示解説



記念講演会 - 青木一郎先生 -

し、美濃における医学・蘭学教育の中心的役割を果たした)と坪井塾(江戸で画期的な医学教育を行った。門人に緒方洪庵などが出ている)の遺品を中心とした。

「庶民生活への普及」のコーナーでは、主に幕末を対象として、「在村医の活躍」と「種痘の普及」に分け、庶民にとって蘭学(洋学)とは何んであったのかを紹介した。「在村医の活躍」では、大垣の江馬塾出身者や華岡青洲の門人などが、庶民の治療にあたった医療具や手術記録図などを展示した。「種痘の普及」では、天然痘に対する民衆の苦しみや、蘭方医の種痘の普及に対する努力を、「宝暦五年痘瘡煩書上覚」や「種痘録」などで表わした。

特別展開催中の関連行事として、日本医学史学会評議員青木一郎先生(揖斐郡大野町)の記念講演「美濃の蘭学」を行った。岐阜県における蘭学研究の先駆者であり、第一人者の先生の講



展示の一部

演は、聴講者に多大な感銘を与えた。

今回の展示は、蘭学という学問を取り上げたこともあって、難しくなり過ぎないかという危惧もあったが、実際に開幕したら数多くの入館者があり、小学生も興味を持って見ており、好評であった。

〈資料出品者〉 (敬称略・順不同)

青木一郎・飯沼順二・伊東尚生・江馬庄次郎・大橋信雄・岐阜大学医学部付属看護学校  
田口慶昭・千葉清子・津山郷土館・津山洋学資料館・天猷寺・内藤記念くすり博物館  
仁木士弘・西脇郁三・不破 洋・前川 潔・三尾則夫・若園保之・若林正治・山田太郎

展 示 資 料 目 録

No.	資 料 名	No.	資 料 名	No.	資 料 名	No.	資 料 名
1	経絡人形	33	經驗良方	65	毛(飯)二(福)植(物)印(書)圖(書)	97	日米和親条約(写)
2	内蔵景之	34	鳴蘭言語法	66	文政元年津山藩主初回国行列図	98	大坂大火風評(写)
3	蔵景之	35	らんび	67	善多足河経(複製本)	99	痘瘡神護符
4	解体新書	36	薬研	68	植学啓原権御願書	100	痘瘡守護神護符
5	重訂解体新書	37	動く循環系模型	69	植学啓原権御願書	101	痘瘡まじな絵
6	オランダ解剖模	38	動く心臓模型	70	舎比重重開	102	痘瘡見舞軽焼錦絵
7	オランダ解剖模	39	解剖鏡図	71	比厚生新編	103	痘瘡守護神護符
8	蘭学階梯	40	泰西方方概義	72	遠音鏡集	104	八郎大蔵人形
9	蘭学階梯	41	蘭方方概義	73	西洋楽律稿(仮題)	105	笹野才藏人形
10	蘭学階梯	42	蘭方方概義	74	西オララダカルル像	106	三春牛犬馬
11	管籥言(江馬蘭齋筆写本)	43	ヒボクラテス像(複製)	75	ヒボクラテス像	107	御守犬絵
12	管籥言(江馬蘭齋筆写本)	44	ヒボクラテス像	76	手術療術用具	108	宝暦五年痘瘡煩書上覚
13	蘭齋遺稿	45	「医森玄良肖像(複製)	77	手術療術用具	109	天明六年痘瘡之節万人用覚
14	三種諸格編(江馬元弘筆写本)	46	写真真「小森玄良肖像」	78	手術療術用具	110	種痘前書
15	四法諸時対訳(江馬蘭齋筆写本)	47	写真真「医森玄良肖像」	79	手術療術用具	111	種痘前書
16	江馬蘭齋肖像画	48	和蘭内景医範提綱附銅版図	80	乳癌手術記(筆写本)	112	種痘前書
17	前野玄白からの手紙	49	和蘭内景医範提綱附銅版図	81	乳癌手術記(筆写本)	113	吐哇国新出種痘奇書
18	杉田玄白からの手紙	50	和蘭内景医範提綱附銅版図	82	華洲外科絵図(仮題)	114	青島痘瘡用
19	西本願寺御門跡病氣一件覚書	51	万病治準(筆写本)	83	華洲青洲肖像画	115	牛痘瘡用
20	五液診法稿本	52	扶弐氏神經熱論(筆写本)	84	青洲門人帳(筆写本)	116	種痘用メ
21	五液診法版木	53	扶弐氏神經熱論(筆写本)	85	「金瘡跌撲療治之書」他(筆写本)	117	種痘御濟口御証
22	五液診法版木	54	扶弐氏神經熱論(筆写本)	86	往診用百味箆	118	種痘日付録
23	江波医事問答	55	坪井信道肖像	87	往診用百味箆	119	種痘人数姓名書状
24	写真真「蒸気風呂」	56	坪井信道肖像	88	往診用百味箆	120	種痘に種
25	芝蘭堂新元会図(複製)	57	双頭胎之略記	89	洋方医の薬箱	121	種痘に種
26	江馬蘭学塾瓦	58	緒方洪庵肖像	90	往診用百味箆	122	種痘に種
27	江馬邸取	59	緒方洪庵肖像	91	往診用百味箆	123	種痘に種
28	ヒボクラテス像	60	詩草経物産図	92	往診用百味箆	124	種痘に種
29	江馬門人姓名録	61	草木微図	93	往診用百味箆	125	種痘に種
30	ゾーフハルマ(筆写本)	62	草木微図	94	往診用百味箆	126	種痘に種
31	GRAMMATICA	63	草木微図	95	往診用百味箆		
32	Woordkonst boek	64	草木微図	96	往診用百味箆		

## 5. 資料紹介展

### (1) 刀装具

59年12月16日(日)～60年2月3日(日)



刀装具とは、腰刀・打刀の拵えに用いられた鐔、小柄、目貫、縁頭、拵などの金具のことである。

これら刀装具の今日まで大切に保管され残されてきた作品には、その感覚のすばらしさ、色彩効果の鋭さ、工作の入念さなどが感じられ、わたしたちの心を魅了してやまないものがある。それは、作られた時代の個性というべき時代性、作者の作流の個性というべき作風、そして、作者の人間的な個性などが重なり合ってわたしたちに迫ってくるからであります。

機械文明の中にあって、心ないものが氾濫する中に生きる現代人のわたしたちが、今日、全く無用になった刀装具の洗練された感覚や入念な工作などから、そこにある美意識と誇り高いモラルを学ぶことができる。

当館として、刀装具を一堂に集め資料紹介をするのは、今回が初めてである。そこで、今回は、刀装具についての理解を深めていただく

めのいくつかの視点を考え、展示構成にあたった。したがって、当地方との関わりが深い「美濃彫」にポイントをおいた展示はできなかった。将来は、今回の展示を足場にして、焦点的な刀装具展が試みられたらと考えている。

資料紹介「刀装具」展の展示構成の概要は次の通りである。〈( )内の数字は展示資料数〉

#### I、刀装の歴史(6)

#### II、刀装具の鑑賞

1. 目貫(9)
2. 拵(9)
3. 小柄(12)
4. 縁頭(9)
5. 鐔

(1)形状(33)

(2)用材(13)

(3)各種の鐔

・透し鐔(14)

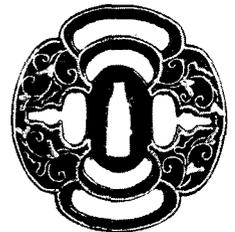
・象嵌鐔(12)

(4)鐔の発展

・桃山期以上(16)

・桃山期(26)

・江戸期(35)

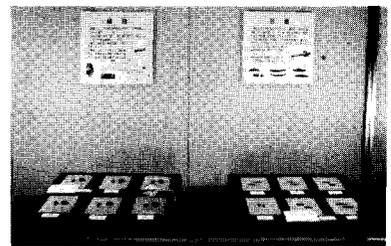
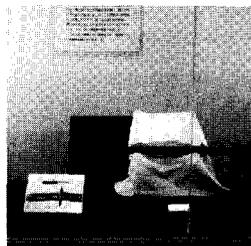
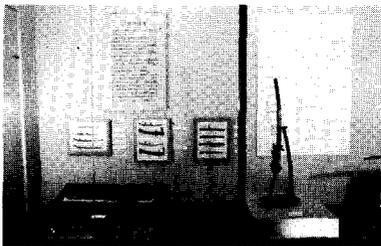


瓢箪透鐔(桃山期以前)  
(平安城象嵌)



#### III、全国各地の砂鉄による 牡丹図縁頭(江戸期 鐔の製作の試み (美濃彫)

中津川市在住の鐔師、成木一彦氏は、全国各地の砂鉄または鉄鉱石を採集し、それをもとに自家製鋼をつくり、鐔づくりを試みられました。昭和58年に、その貴重な資料を当館に寄贈いただいたものである。採集地16ヶ所。いずれも、砂鉄——玉鋼——地鉄——鐔の4工程。



## (2) ふるさとの大地をつくる岩石

2月10日(日)～4月7日(日)

岐阜県の大地は、長い自然の歴史の中で生まれたいろいろな種類の岩石が組みあわさってできている。日本列島の中でも、最も岩石の種類が多い地域である。また、これらの岩石は、大地の構成物であるばかりでなく、石器時代から現在に至るまで、我々の生活の資源(材料)や道具として利用されてきた。

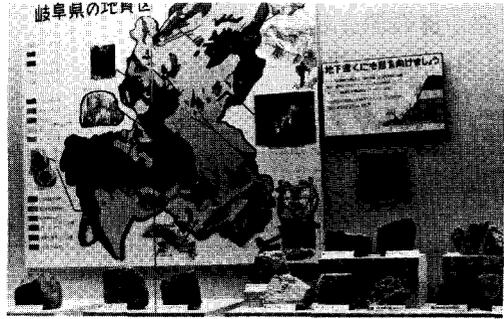
今回の資料紹介展では、ふるさとにみられる様々な岩石を、単に分類展示するだけでなく、大地のおたち、すなわち自然史の流れの中でとらえていただけるような展示構成とした。そのために、当館で収蔵している岩石標本を活用し、展示の流れを次のようにした。

### I、岐阜県の基盤岩(骨組になっている岩石)

- (1)飛騨帯の岩石……片麻岩・角閃岩・花こう岩・石英閃緑岩・斑れい岩など11点
- (2)飛騨外縁帯の岩石……雲母片岩・閃緑岩・石灰岩・蛇紋岩・夏岩など9点
- (3)美濃帯の岩石……石灰岩・玄武岩質凝灰岩・礫岩・層状チャートなど14点
- (4)領家帯の岩石……ホルンフェルス・花こう岩・花こう閃緑岩など8点

### II、基盤岩をおおう岩石(骨組をおおい、覆っている岩石)

- (1)手取層群の岩石……砂岩・礫岩・含礫砂岩・ひん岩・夏岩など8点
- (2)白亜紀の火山岩(濃飛流紋岩など)……流紋岩質溶岩・流紋岩質溶結凝灰岩・安山岩質溶結凝灰岩など15点



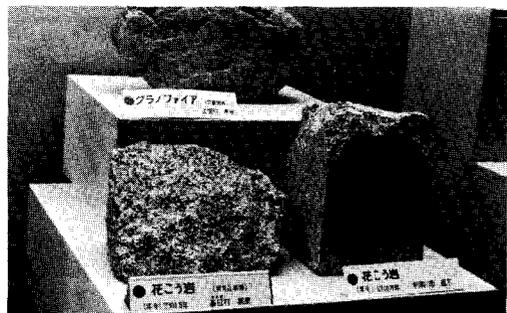
- (3)白亜紀～古第三紀の花こう岩……花こう閃緑岩・グラノファイア・花こう岩・花こう閃緑岩など15点

- (4)新第三紀の火山岩と堆積岩……安山岩質溶岩・泥岩・砂岩など8点

- (5)第三紀末～第四紀の火山岩……火山角礫岩・デーサイト質溶岩・安山岩質溶岩・凝灰角礫岩など13点 (以上101点)

以上のケース内展示の他に、直径60～100 cmに及ぶ大型の岩石を、特別展示室内、玄関ホール階段わき等に配し公開した。

コーナー解説パネルの他に、岐阜県の地質図の大型パネル(写真参照)を自作し、展示の流れに山場を設け、「変成作用とは」「石灰岩とくらし」「たい積岩とつぶの大きさ」「溶結凝灰岩とは」「地下深くにも目を向けましょう」「花こう岩のなかま」「マグマからできる岩石」「地質年表」等の補助解説図表を作成展示し、見学の手引きとして、約30ページの解説書を用意、希望者に配布した。岩石名ひとつひとつのラベルには、火成岩=赤丸、堆積岩=青丸、変成岩=紫丸のマークをつける配慮をした。



## 6. 資料調査収集活動

### (1) 人文部門

	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	そ の 他	( 寄 贈 )			
考 古	1,884	165	48	(1,739)	599	175	2,871
歴 史	745	29	115	( 732)	325	15	1,229
民 俗	621	0	9	( 621)	0	1	631
美術・工芸	203	15	34	( 148)	259	590	1,101
計	3,453	209	206	(3,240)	1,183	781	5,832

複製には模型・ジオラマを含む（昭和60年3月31日現在）

#### 1. 資料寄贈者芳名一覧（敬称略・順不同）

資 料 名	点 数	芳 名
九五式折畳舟	1	片野 栄三
麦摺器	1	金子 郁雄
刀剣材料用鉄鉾石 （赤鉄鉾）	1	大野 正己

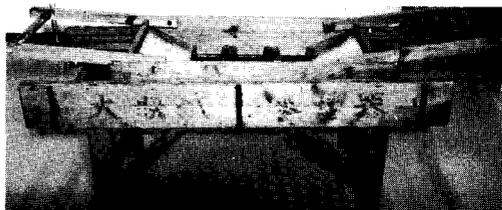
#### 2. 新館蔵資料紹介

##### ・麦摺器

関市朝倉町の金子郁雄氏より寄贈された。

この麦摺器は、昭和20年代前半にかなり高い価格で購入し、昭和30年頃まで使用された。

これは、機械化される直前のもので、使用期間も短く、使用台数も少ないと思われる。



##### ・木造多聞天立像（像高78cm）

岐阜市粟野の済法寺の四天王像は、昭和41年度に県重要文化財の指定を受けている。この四天王像は、檜材の寄木造りで玉眼嵌入。甲冑に身を固め、手にはそれぞれ定めの手物を持ち、邪鬼または獅子を踏みつけて立つ。光背は、いずれも輪光で三方に火焰をつけ、活動的で迫力に満ちている。（複製では光背を除いている）原像の製作年代は、鎌倉末期と思われる。

本年度は、この四天王像のうち木造多聞天立像の複製を製作した。これで、当館は、済法寺四天王像4体全部の複製を終えたことになる。



## (2) 自然部門

	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	移管・自作 その他	(寄 贈)			
動 物	18,104	15	201	( 8,630)	15	0	18,335
植 物	3,704	25	185	( 2,583)	0	0	3,914
岩石・鉱物	1,874	5	73	( 458)	20	3	1,975
化 石	1,609	31	20	( 1,003)	51	19	1,730
そ の 他	57	22	168	( 15)	0	0	247
計	25,348	98	647	(12,683)	86	22	26,201

複製には模型・ジオラマを含む（昭和60年3月31日現在）

## 1. 資料寄贈者芳名一覧（敬称略・順不同）

資 料 名	点数	芳 名	資 料 名	点数	芳 名
アカゲラ	1	三 島 善 伸	ノゴマ	1	山 田 光 夫
サルほか	3	神 山 智 雄	トンボ類ほか	13	宮 野 昭 彦
アライグマ	1	朝 日 力	クロイワマイマイほか	6	中 島 照 雄
キジ	1	大 野 光 子	ツキノワグマ上皮	1	下 田 金 蔵
ホンドタヌキ	1	井 藤 直 紀	ホンドタヌキ	1	金 古 弘 之
昆虫標本箱	10	高 鷲 村	トビ	1	沢 村 章
イノシシ下顎骨	2	嶽 本 清一郎	コカワラヒワ	1	間 野 泰 弥
コサギ・ヤマドリほか	5	後 藤 正	ホオジロ	1	岸 二 郎
アブラコウモリ	1	速 水 隆 夫	オオヨシキリ	1	小 島 綾 子
ツバメ	1	古 川 守	ノコウラナメクジ	1	松 原 弘 和
ドバト幼鳥	1	名古路 嘉 春	ホンドキツネ	1	服 部 千 章
鳥の巣カラスほか	5	高 橋 敏 郎	ヒト骨格	1	野 田 知 澄
木曾川の魚類	25	林 復 明	チャコウラナメクジ	1	小野木 敦 子
アブラコウモリ	1	西 田 智 美	シマヘビ脱皮殻	1	近 藤 章 仁
アブラコウモリ	1	渡 辺 智 久	キジ	1	船 越 進 太郎
アブラコウモリ	1	大 垣 康 夫	アオバト	1	若 林 金 夫
イノシシ胎児	3	村 瀬 昭 雄	コイほか	10	増 井 政 夫
ササクモ	1	山 口 泰 弘	タヌキ骨格	3	梶 浦 敬 一
クロイワマイマイ	1	横 井 知 宏	ジネズミ	1	川 崎 艶 子
チスルヒル	1	深 谷 誠 次	岐阜県産貝類ほか	約3000	宮 崎 惇
アリs.p.	1	柳 瀬 栄 子	カワセミ剝製	1	平 林 良 三
台湾産チョウほか	221	飯 田 罔 昌	ホンドイタチ剝製	1	今 井 悦 夫
メボソムシクイほか	5	亀 山 力 造	ヌートリア	1	金 森 昭 至
外国産昆虫標本	72	飯 田 逸 博	ウマの胎児・ウシの頭骨	各1	長 沼 悟
チャコウラナメクジ	1	福 井 厚 史	クロスズメバチの巣	1	木 股 享
ノコウラナメクジ	1	森 本 寿 幸	ニホンジカの胃	1	河 尻 準 之助
ヌマガイ軟体部	3	近 藤 正 臣	アブラコウモリ	1	成 瀬 亮 司

資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名
県内産植物標本	2,700	長瀬秀雄	ウミユリ・サングほか	105	長屋清一
郡上郡産植物標本	10,000	金古弘之	有孔虫	4	渡辺文平
県内産植物標本	1,000	二村延夫	桜島火山の新火山灰	5	宮崎惇



寄贈動物資料の一部



寄贈植物資料の一部

## 2. 化石資料収集

調査収集地域：古城郡上宝村福地空山地域

収集した化石資料：シルル―デボン紀の腕足類三葉虫などの動物化石約60点

調査収集作業人員：小野輝雄外4名の協力員  
当館職員2名

作業指導講師：東京大学浜田隆士教授

今年度は10月下旬2日間にわたって実施した。空山地域は近年遊歩道新設工事に伴って含化石層が発見されているので、新資料が多く採取される可能性があり調査を進めた。

第1日は雨の中で実施したが、翌日は晴天にめぐまれて順調に行うことができた。

特に魚類化石の発見は注目に値するが、いずれも未同定のものである。

## 3. 常設展示の充実

○自然展示室Ⅰ「ジュラ紀の海」の充実

美濃帯中生層から最近発見された多くのジュラ紀放射虫化石のうちから地元にちなんで命名された新種の一部をその電子顕微鏡写真によって展示した。

○自然展示室Ⅰ「美山の動物たち」の充実

氷河期生き残り植物のカラーコルトンを更新し3種から4種とした。

○自然展示室Ⅱ「岩石」「植物」の充実

岩石電子顕微鏡写真4種、植物生態写真2種のカラーコルトンを更新した。

## 4. 常設展示充実準備に関する調査収集

地学分野 (1)飛騨北部の新第三紀火山岩(楢峠層)の資料収集

(2)美濃帯中生層中の貫入岩(花こう斑岩)調査収集

(3)美濃帯の緑色岩・チャート・石灰岩の資料収集

(4)白亜紀花こう岩(貝月山岩体)資料の調査収集

動物分野 (1)郡上郡高鷲村蛭ヶ野の動物調査

(2)カモシカ標本作製のため作業野生動物研究センターを通じ、カモシカの各部位の液浸標本及び樹脂標本作製

(3)大野郡朝日村青屋の昆虫調査

植物分野 (1)郡上郡高鷲村蛭ヶ野の植物調査

(2)県内各地のスミレ類、タンポポ類、人里植物の資料収集、現地生態調査及び写真撮影

(3)飛騨川源流域の植物資料収集、生態学的現地調査

(4)本県の植物分布地理を特色づける植物資料の収集と生態写真撮影

## 7. 教育普及活動

### (1) 概 略

生涯教育、学校の校外教育の場として、あるいは知的レジャー、家族レクリエーションの場として、博物館の果たす役割はますます重要なものとなってきている。59年度は博物館に興味と関心をもっていただき、より多くの県民の方々にご利用、ご参加していただけるよう普及活動を展開した。

移動展以外の各種事業の参加人数は総計984名、新たな企画として、民俗芸能実演－関の孫六太鼓－を春秋2回開催した。大好評で、これからは年中行事として定着させていきたい。また、PRの面では、催しもの案内を、B4判、両面刷り、3つ折とし、写真を多くした。子ども達に人気があり、増刷りをするようになった。

### ○講演会及び各教室

特別展の記念講演は各1回ずつの3回、自然教室2、人文教室2、その他の教室16、計23教室を催した。当初予定していた自然教室「岐阜県のチョウ」(7/8)が、講師名和先生の急病のためやむなく中止となったのは誠に残念であった。



自然観察会(1泊2日)、火おこし器をつくらう、お面づくり、竹細工、版画、しめなわづくり等、ともに参加し、何かをつくりだす教室に人気が集まり、定員を越えてお断りした方々が多くあった。また、自然・人文移動教室も早くから申込みが殺到した。博物館の普及活動を考える時、館内に待機しているだけでなく、積極的に外に出て、ともに活動し学ぶ姿勢が求められるように思われる。来年度の活動の課題であろう。

### ○教職員研修会

高等学校教育研究会社会科部会の総会が当館見学を兼ね開催された。また7月25日には、高等学校新規採用教員研修が実施され、約150名の若い先生方が館内をくまなく見学していかれた。このような、先生方の研修の場として、広く利用いただき、次の機会には生徒をつれて博物館を活用してくださることを期待している。

### ○出版物

岐阜県博物館報第7号、岐阜県博物館調査研究報告第6号、岐阜県博物館だよりNo.23～No.25岐阜県博物館催しもの案内を刊行した。



### ○広報活動

特別展の資料発送の際、各市教委へ持参し広報・PRに努めた。各校長会、教頭会、社会教育担当主事会等において団体利用の依頼をした。また、催しもの、講演会、教室等の際、新聞社、放送局等各報道機関に連絡をし、その活動を広くPRした。

催しもの案内、チラシを各文化施設、十六銀行の窓口へ配布し、広く行事活動内容をPRし、多くの方々の参加を呼びかけた。



昭和59年度 各種講演会及び教室等の参加人数

	月・日	教室名	テマ・内容	講師	対象	参加人数
人文関係	5・20	講演会	美濃の戦国大名	東京大学助教授・勝俣 鎮 夫氏	一般	165
	10・14	〃	美濃の蘭学	日本医史学会評議員・青木 一郎氏	〃	62
	6・3	人文教室	濃飛の戦国時代	郷土史家・吉岡 勲氏	中学生以上	76
	11・18	〃	壬申の乱と岐阜県	岐阜大学教授・野村 忠 夫氏	〃	65
	5・13	人文移動教室	戦国武将ゆかりの寺をたずねて	当館学芸主事・片野 雅 夫	〃	21
	5・6	歴史教室	宝暦治水	当館学芸主事・片野 雅 夫	〃	24
	7・15	〃	木曾三川分流	〃 ・ 〃	〃	35
	10・21	〃	輪中のくらし	〃 ・ 〃	〃	20
	7・22	親子考古教室	縄文時代のすまい	当館学芸主事・徳松 正 広	親と子	20
8・12	〃	火おこし器をつくろう	〃 ・ 〃	〃	50	
自然関係	8・5	講演会	ふるさとの昆虫	名古屋女子大学教授・佐藤 正 孝氏	一般	65
	6・24	自然教室	はげしい火山活動	岐阜大学教官・小井土 由 光氏	中学生以上	23
	7・8	〃	岐阜県のチョウ	名和昆虫博物館長・名和 秀 雄氏	〃	中止
	9・16	〃	中国や日本の薬用植物	岐阜薬科大学教官・田中 俊 弘氏	〃	33
	7・28 29	自然観察会	板取の昆虫と植物	当館学芸主事 小野木・安藤・鈴木	親と子	47
	10・28	自然移動教室	岐阜根尾地域の自然をたずねて(地質めぐり)	〃 ・ 笠原 芳 雄	中学生以上	22
	4・22	自然観察教室	百年公園の植物しらべ	当館学芸主事・小野木 三 郎	親と子	20
	11・11	〃	〃	〃 ・ 〃	〃	25
	5・27	〃	百年公園の昆虫しらべ	当館学芸主事 ・ 安藤志郎・鈴木功	〃	32
9・30	〃	〃	〃 〃 〃	〃	9	
教育普及	6・17	親子手づくり教室	お面づくり	当館学芸主事・平井 昭 彦	親と子	24
	8・26	〃	竹細工	竹細工師・石原文 雄氏	〃	49
	12・2	〃	版画あそび	当館学芸主事・平田 公 二	〃	32
	12・16	〃	しめなわづくり	ワラ細工師・大野 仁 久氏	〃	47
	7・	夏休み学習相談		当館学芸主事・各担当	小・中学生	9
	8・	〃		〃 ・ 〃	〃	9

(2) 移動展



恵那移動展

揖斐川町移動展

- ・ 8月3日～8月15日
  - ・ 恵那文化センター
  - ・ 入場者約 2,100名
  - ・ 8月18日～8月31日
  - ・ 揖斐川町中央公民館
  - ・ 入場者約 1,950名
- 主催：岐阜県博物館、恵那市教育委員会、揖斐川町教育委員会

テーマ「ふるさとの植物とは乳動物」

植物のおし葉標本約 200点、動物の剥製20点、解説パネル、写真等により、ふるさとの自然の姿を博物館になかなか足を運べない地域の方々に見ていただいた。また、植物教室、動物教室、おし葉標本の作り方教室を開き、夏休み中の小中学生に、大人気であった。

「こんなにたくさんの植物や動物の標本で、自然の様子がよくわかりました。特に、外国のタンポポと日本のタンポポのちがいなど、勉強になった。弟(9才)にもよくわかるのですばらしいと思います。これからも、こんなふうになってくださると、ぼくたちの知識がふえていくと思います。(11才、男子)」

(3) 昭和59年度 岐阜県博物館刊行物一覧表

名 称	発行年月日	版 ・ 頁	部 数	備 考
岐阜県博物館だより 第23号	59. 4. 1	B 5 ・ 4 頁	2,500	
〃 第24号	59. 7. 1	〃	2,500	
〃 第25号	59. 10. 1	〃	2,500	
岐阜県博物館報 第7号	59. 7. 1	B 5 ・ 30頁	1,500	
岐阜県博物館調査研究報告 第6号	60. 3. 31	B 5 ・ 62頁	1,000	
昭和59年度岐阜県博物館催しもの案内	59. 4. 1	B 4 表裏	30,000	
特別展 図録 濃飛の戦国武将	59. 4. 20	B 5 ・ 40頁	300	
美濃の蘭学	59. 10. 2	B 5 ・ 32頁	300	
特別展 リーフレット ふるさとの昆虫	59. 7. 17	A 5 ・ 16頁	12,000	
特別展 ポスター 濃飛の戦国武将	59. 4. 20	B 3	1,800	
ふるさとの昆虫	59. 7. 17	B 3	1,500	
美濃の蘭学	59. 10. 2	B 3	1,700	
資料紹介展 図録 刀装具	59. 12. 16	B 5 ・ 58頁	300	
ふるさとの大地をつくる岩石	60. 2. 10	A 5 ・ 10頁	600	

(4) 日曜映写会 (16mm・スライド・VTR)

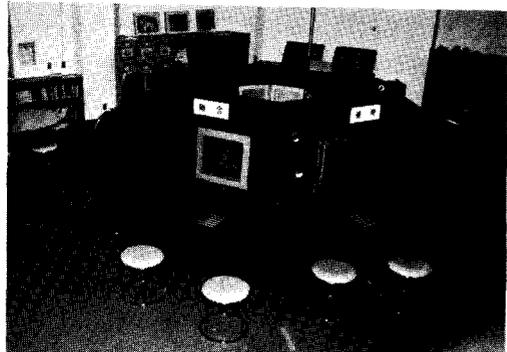
期 間	題 名	観覧者数
4月24日～6月3日	岐阜市の文化財(2)・中世編、百年公園と博物館 ようこそ博物館	1,661
7月17日～9月2日	ふるさとのチョウ、ふるさとの甲虫 百年公園と博物館、ようこそ博物館	1,137
10月9日～11月25日	くすりと日本人、蘭学をおこした人々 百年公園と博物館、ようこそ博物館	1,291

(5) 郷土学習室 (ビデオ・スタディ・コーナーの新設)

新しい時代の要求に応えるべく、視聴覚機器の導入をはかり、郷土学習室に6ブースからなるビデオ・スタディ・コーナーを新設した。

総合・歴史・民俗・地学・動物・植物の6つのブースにそれぞれ3～6の番組が用意されており、ボタン1つで自由に視聴することができるシステムである。10月1日の開設式のあと、10月3日より一般利用を開始したが、多数の方々に利用いただいている。

今後は番組をふやし、新たな動く展示としての充実が大きな課題となった。



## 教育普及活動スナップ

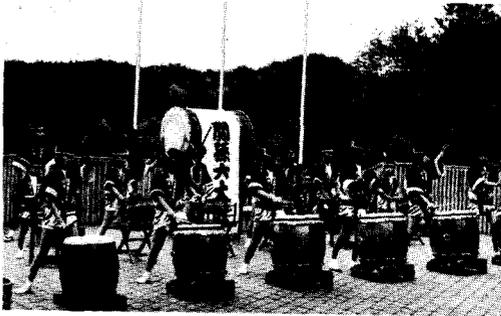
☆自然観察教室「百年公園の植物のしらべ」

4月22日(日) 自然観察のこみちを歩き、春の草花を観察した。



☆民俗芸能実演「関の孫六太鼓」

4月30日(日) 関孫六太鼓保存会少年部のみなさんによる熱演に、多くの人が聴きほれ、見とれて大好評だった。



☆親子手づくり教室「版画あそび」

12月2日(日) 紙版画・イモ版画・ゴム版画・スチレン版画といろいろな素材を使い、年賀状を飾った。



☆親子手づくり教室「しめなわづくり」

12月16日(日) お正月は自作のしめなわで迎えようと、多くの親子が集った。

## 友の会

昭和58年10月23日に発足した友の会は、多くの賛同者を得て、59年3月には、会員が213名を数えるまでになった。

主な事業としては、探訪の旅、友の会報の発行、特別展図録・展示解説等の頒分等を行った。

(探訪の旅)

- 中濃史跡と町並みめぐり 59. 3.11 参加21名
- 中濃地質めぐり 59. 6.10 参加21名
- 歴史探訪寺めぐり 59.10. 7 参加22名

(特別展図録・展示解説等頒布)

「濃飛の戦国武将」	199部	800円
「美濃の蘭学」	101部	500円
「展示解説」	467部	100円
「ひるがの高原」	44部	300円

(友の会報)

創刊号 59. 3.31 B5判 4頁 300部

第2号 59.10. 1 B5判 2頁 300部

その他、催しもの、行事のあるごとに、手書きの号外を発行した。



▲ 中濃史跡と町並みめぐり

8. 図書資料寄贈者芳名一覧 (昭和59年4月1日～昭和60年3月31日)

【博物館関係】

埼玉県立近代美術館	埼玉県立民俗文化センター	福山市立福山城博物館
岐阜県美術館	福井市立郷土歴史博物館	富山市科学文化センター
神奈川県立埋蔵文化財センター	南山大学人類学博物館	富士市立博物館
北九州市立自然史博物館	宮崎県総合博物館	福岡市立歴史資料館
岩手県立博物館	鳥取県立博物館	石川県立郷土資料館
岩手県立農業博物館	大垣市歴史民俗資料館	岐阜県陶磁器陳列館
八王子市郷土資料館	東北歴史資料館	和歌山県立紀伊風土記の丘資料館
兵庫県立歴史博物館	岐阜市少年科学センター	常滑市民俗資料館
福井県立博物館	国際基督教大学博物館	富山市考古資料館
渋谷区立松涛美術館	たばこと塩の博物館	倉敷市立自然史博物館
山梨県立美術館	名古屋市立博物館	大船渡市立博物館
福井市立郷土博物館	松本市立博物館	瑞穂陶磁資料館
船橋市郷土資料館	山口県立美術館	斜里町立知床博物館
北見市立北見郷土博物館	奈良県立橿原考古学研究所	山梨県立考古博物館
小松市立博物館	附属博物館	市市市川考古博物館
相川郷土博物館	和歌山県立自然博物館	久能山東照宮博物館
長崎県立美術館	広島県立歴史民俗資料館	滋賀県立近江風土記の丘資料館
愛媛県立博物館	長野市立博物館	倉吉博物館
浜松市博物館	国立科学博物館附属自然教育園	国立民族学博物館
平塚市博物館	京都国立博物館	千葉県立加曾利博物館
霊山歴史館	横浜海洋科学博物館	館山市立博物館
埼玉県立さきたま資料館	須賀川市立博物館	佐野市郷土博物館
静岡市立登呂博物館	大阪市立自然史博物館	堺市博物館
群馬県立歴史博物館	黎明館	市立長浜城歴史博物館
根岸競馬記念公苑	福井県立若狭歴史民俗資料館	北九州市立歴史博物館
飛鳥資料館	青森県立郷土館	熱田神宮宝物館
大田区立郷土博物館	岐南町歴史民俗資料館	藤原岳自然科学館
神奈川県立博物館	白鶴美術館	山形県立博物館
北海道開拓記念館	神戸市立博物館	憲政記念館
佐賀県立博物館	弘前市立博物館	大阪市立博物館
秋田県立博物館	石川県立美術館	日本モンキーセンター
神奈川県立金沢文庫	国立科学博物館	リトルワールド
埼玉県立博物館	徳島県博物館	明治村
沼津市歴史民俗資料館	埼玉県立自然史博物館	【教育委員会関係】
東京都美術館	岐阜県歴史資料館	白川町教育委員会
三好町立歴史民俗資料館	東京都埋蔵文化財センター	各務原市教育委員会
両津市郷土博物館	愛知県陶磁資料館	藤橋村教育委員会
京都府立丹後郷土資料館	千葉県文化財センター	福島県教育委員会
大分県立宇佐風土記の丘	東京富士美術館	世田谷区教育委員会
歴史民俗資料館	可児郷土歴史館	いわき市教育委員会
栃木県立博物館	奈良県立民俗博物館	長崎県教育委員会
	瑞浪市化石博物館	鷹島町教育委員会

三好町教育委員会  
東京都品川区教育委員会  
福生市教育委員会  
神奈川県教育委員会  
岐阜県立図書館  
藤原町教育委員会  
美濃加茂市教育委員会  
岐阜県教育センター  
相模原市教育委員会  
広島市教育委員会  
尼崎市教育委員会  
多治見市教育委員会  
大垣市教育委員会  
沖縄県立教育センター  
沼津市教育センター  
高山市教育委員会  
板取町教育委員会  
京都府教育委員会  
東京都教育委員会  
清見村教育委員会  
恵那市教育委員会  
浜名郡新居町教育委員会  
豊田市教育委員会  
可児市教育委員会  
川口市教育委員会  
山鹿市教育委員会  
八王子市教育委員会  
土岐市教育委員会  
愛知県教育委員会  
東濃教育事務所  
羽島市教育委員会  
国府町教育委員会  
瀬戸市教育委員会  
【学校関係】  
岐阜大学  
岐阜県立華陽高等学校  
帯広畜産大学糖平生物研究所  
帝塚山大学考古学実習室  
奈良大学文学部文化財学科  
愛知教育大学地学教育  
高山市立西小学校  
大手前女子学園

国学院大学文学部考古学研究室  
笠松町立松枝小学校  
板取北小学校  
京都大学霊長類研究所  
笠郷小学校  
神奈川大学日本常民文化研究所  
岐阜大学教育学部附属中学校  
岐阜県立岐阜工業高等学校

【研究機関】

府中市遺跡調査会  
世田谷区民俗調査団  
津島地学研究会  
美術研究所  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
哺乳類研究グループ  
地質調査所  
岐阜県哺乳動物調査研究会  
皇居内生物研究所  
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所  
静岡県埋蔵文化財調査研究所  
山村文化研究所

【個人】

横井隆幸  
梶田澄雄  
大久根茂  
横山稔  
金古弘之  
不破洋  
蜂矢喜一郎  
粕谷圭司  
浅野忍  
宮崎憲二  
石田鎌一  
仲井豊  
浜田隆士  
平井賢吾  
宮崎惇  
江原昭義  
馬淵勲  
池田芳雄  
伊藤一成  
古井亮一

藤井昭二  
前田喜四雄  
出羽寛  
建部四郎  
篠田通弘  
池田文夫  
伊佐地勉可